

## 平成26年度第1回井口地域審議会会議録

- 1 開催日時 平成26年5月19日(月)午前9時30分から11時42分まで
- 2 開催場所 南砺市井口行政センター(2階)特別会議室
- 3 出席委員 9名 林 則雄、荒井吉治、小林加津實、中嶋伸夫、中山秀一、中山清貴、柳田由紀、吉田しのぶ、高野芳美
- 4 欠席委員 3名 藤田節子、武部 巧、吉田治夫
- 5 市側出席者 田中市長、長澤市長政策室長、高山総務部長、山崎井口行政センター長  
上口市民協働課長、齊藤財政課長、鳥越税務課長、西井行革・施設再編課長、  
此尾政策推進課主幹、石本市民協働課主査、山田井口行政センター次長
- 6 傍聴者 2名
- 7 協議議題 ①平成26年度南砺市予算について  
②南砺市公共施設再編計画の変更について  
③集合納税方式から単税方式への変更について  
④空き家等の適正管理について  
⑤南砺市エコビレッジ構想桜ヶ池アクションプランについて

### 8 会議経過

#### ○開会

山崎行政センター長から開会の宣言と藤田委員、武部委員、吉田委員の欠席報告を行う。

#### ○委嘱書の交付

委員に対し田中市長から委嘱書を交付。

#### ○会長・副会長選出

山崎センター長より、会議前に委員で互選し、会長に林則雄氏、副会長に荒井吉治氏を選出したことを報告。

一同承認

#### ○会長挨拶

林会長より開会の挨拶。

#### ○市長挨拶

行政の仕事を共に考える場と思っているので、委員の皆様方には、3年間よろしくお願  
いしたい。まず、本日の議題の大まかな点と、最近の市政について申し上げたい。今年  
は、南砺市合併10周年の節目の年であることと、北陸にとっては100年に1度のチャンスと  
言われている北陸新幹線金沢開通という大規模なプロジェクトが完成する。南砺市になっ  
て良かったと実感できるかどうかという1年でもある。更に、将来に向けて弾みのつく1  
年であるべきで、市民の皆さんと一体となって、安全で暮らしやすい地域にしていくとい  
うことでも大事だと思っている。今年様々な記念事業も考えているが、より多くの人に  
参画を頂くことが重要であると思っている。今回の市の予算については、福祉事業の他に、  
特に子育てに予算を使いたい。1つには第3子以降の保育料無料化、そして、昨年小学生  
の医療費の無料化をしたが、今年10月からは、中学生の通院を1割負担にするなど事業拡  
充をさせたい。更に、保育園の整備も進め子育て環境を充実していきたいと思っている。  
また、これまで課題となっていた空き家対策、婚活、定住対策を一つにまとめ、4月から

「南砺で暮らしません課」を作り、取り組みを強化した。南砺市は数年前から、いかに若い世代の定住に繋げるかといった事業に取り組んでいる。その中でも、婚活は他市町村に先駆けて取り組んだ。若い人達がここで起業したい、何かしたいという話も増えており、そういったものも確実に掴みながら定住化を進めていきたいと思っている。様々な面で井口の皆さんにはお世話になっているが、昨年度末に屋内グラウンドの完成をさせていただいた。今後は、そこを南砺市の健康の拠点としてしっかり取り組んでいきたい。1つ1つ課題解決に向けて取り組む上で、地域審議会の皆様方と意思の疎通を密にし、情報共有をしながら問題解決の道筋を付けられるような審議会にしていきたいので皆様方の忌憚の無いご意見をいただきたい。

○協議議題

林会長が議長となり順次議事を進める。

① 平成 26 年度南砺市予算について

(高山総務部長から「もっと知りたい南砺の仕事」により説明)

(会 長) 質問やご意見はあるか。

(委 員) 先日、新聞で砺波や高岡で病院経営の黒字の報道もあったが、健康にかかわることなので充実はさせなければいけないが、南砺市の病院会計はどうか。

(高山部長) 平成 24 年度は黒字であった。平成 25 年度は、医師の増員や患者の伸びという様々な要因から赤字となった。今年度改革プランを作成するが、皆さんの命を守るということが一つあり、健全経営も目指してやっていきたい。国からは、それぞれの病院が役割分担をするような方針もあり、南砺の病院が砺波医療圏の中でどういった位置付けをされるかはまだ見えていない状況である。それらを見ながら改革プランを作っていくことになっている。命を守るため赤字でもいいという訳ではないが、これは周りの環境もかなり影響してくるので、その辺を見ながらやっていく必要がある。現在、国の補助をもらい耐震化の事業にも取り組んでいるが、償還金等については一般会計から負担しながらやっているの、直ぐに赤字に転換するものではなく、別の財源もある。純粋に人件費や医薬材料費等と診療報酬とのからみでは、非常に厳しいと聞いている。

(委 員) 雪国としての質問になるが、昨年も除雪費が上がったと思うが、どのくらいの金額になっているのか。

(高山部長) 平成 25 年度の除雪対策費の予算は約 3 億だったが、今年はかなり少雪だったので、初めて当初予算ベースで収まるかと思っていた。ところが、3月に山間部でかなり雪が降り、若干、予備費から支出した。年度によってはその2倍支出することもあり状況を見て対応している。不足となれば専決や補正をさせていただき、十分な除雪が出来るよう措置をしている。

(会 長) 昨年大雨で林道も災害を受けた。山から土砂が崩れ出し、現在も暫定的にしかな通行できない状況であり、道路脇に相当の土砂の堆積が見られる。その処分はいつごろ予算化されるのか。

(高山部長) 林道災害については、発注できるものは全てしている。ただ、発注時期が、2～3月なので、冬期間工事ができず終わっていない箇所もあるかもしれないが、今年中には終わると思っている。ご質問は残土処理についてか。

(会 長) そうである。山もむき出しになっており、少しの雨でまた土砂が流出すると予

想さる。

(高山部長) 被災した箇所については、全件確認し申請し発注している。個別に気になる箇所があれば、行政センターを通じて林政課に連絡し発注状況を確認する。

(田中市長) 災害が発生したもので国庫補助の対応になるものは発注している。林道維持補修についても単費で約2千万円持っているのですが、その路線がどこか確認をしていただきたい。

予算について補足して話をさせていただきたい。借入金残高のうち市が負担する額は、借り入れた額の25%である。基金は減債基金と財調を合わせ約130億になり、返済額と同じくらい基金を持っていることを皆さんに押さえておいて欲しい。また、合併特例債は、合併して10年使えるとのことだったが、震災以降、日本中の落ち込みもあり、15年に延長されたことから、南砺市では平成30年度までに満額使いたいと考えている。交付税は旧町村時代の合計額だったものを一本算定し、今後5年間で普通交付税が39億減額になると予想していた。しかし、全国的な、運動もあり、支所の数や防災関係が広範囲に必要な地域については計算をし直されることから、その半分の額に抑えられると予想している。合併当初と少し話が変わってきているが、南砺市としてはいい方向に進みつつあることをお知らせしたい。

(会長) 他にご意見が無ければ、次に、南砺市公共施設再編計画の変更及び集合納税方式から単税方式への変更についての説明をお願いします。

② 南砺市公共施設再編計画の変更について

③ 集合納税方式から単税方式への変更について

(高山総務部長から資料により説明)

(会長) 質問やご意見はあるか。

(委員) 合併した当時、クラスター方式で始まり、今回再編のリストも見たが、市民からすると、子育てや、安全・安心、医療等に関しては、やはり行政でやってもらいたいと思っている。ただ、合併なので同じような施設があることも承知している。しかし、井口地域では子育てとか保育園の将来、行政センターの存続も心配している。やはり子育てや安心・安全に関することは行政でガードしてもらい、重複する施設は見直すのが良いのではないかと個人的には思っている。そのように考えていてよろしいか。

(高山部長) なぜ、今このような検討をしなければいけないかというと、それぞれの行政施策を推進していくときに、一定の協調性や切磋琢磨が必要な中で、距離が離れていると発揮できない部分も見えてもきている。ただ、それを克服するために電子決裁等も利用しているが、職員が減っている中で本当にやっていけるのかということなど0ベースでの検討が必要で、市民の皆さんの窓口になる行政センターの有り方についてはこれからの話になる。合併し10年間経ての不都合や、市民の皆さんの利便性を考えると、これが最高だとの考えもあるので、その状況を全て整理し課題や問題を抽出していきたいと思っている。

(田中市長) 公共施設の再編については、懇談会から推進委員会に変わったが、そこに計画を提出している。現段階で小・中学校は、平・上平、福光西部を統廃合し、一次の統廃合は終わったと思っている。保育園や行政センター、庁舎の有り方について、

今回の計画の中では、検討をしていこうとしている。保育園は、統合だけでなく、民営化も含め検討していこうというもの。保育園の統廃合は、当初、200人ベースが保育サービスの充実に効率が良いと進んできたが、その中には、民営化も含め検討を進めるともあり今後検討が必要。また、行政センターや各部の組織の検討と合わせ、統合庁舎が今後どうあるべきなのか2～3年で検討が始まる状況である。皆さんと方向性を考え、決める時期になれば決める方向になると思う。庁舎統合の検討の前に、我々の仕事の有り方も含め検討に入った。当然窓口業務は住民の皆さんに近いほうが良いし、ある程度マンパワーとシンクタンク的なところは分けながら考えなければいけないが、今までどおりがいいという事ではなく、0ベースで検討に入った点がいくつかある。

(委員) 確かに、市長が言うように10年経って合併時の方式に固執するとか、地域で独特のものがあったとしても南砺市で一体化して、南砺市チームで頑張れることは当然必要である。ただ、今まで慣れ親しんできたものが明日から無くなると困ることも事実であり、しっかりコンセンサスを得て進めて欲しい。

(田中市長) 進める、進めないは別として、どんな仕事も丁寧に説明していくことが大切であると思っている。まちづくり基本条例にもあるように、大きな判断をすべきときには、ご意見の集約や方向性を見出すことに時間を割くべきだと思っている。

また、放課後児童クラブをやっている施設を、民間手法によるため指定管理者を公募する。先ほどの話でも、子育てについて民間はどうかということもあるが、今のところ保育園と児童館の話は考え方を変えている。指定管理にすると民営化したところに全て任せてしまうのではないかと思われるかもしれないが、今まで以上のサービスを求めるために細かく条件を仕様書にし、指定管理者を探している。現在、児童館で働いている人は臨時職員であり、民間の力を使って働く人も保障した形が大事であると思う。サービスを下げるとか、無責任なことにすることは全く無く、市も監視をしながら利用者のアンケートも取っていき、直すところは直していく。民営というと投げ捨てた感があるが、そういうことではないということをご理解いただきたい。

(会長) 指定管理については、中々理解できていない部分があるかもしれない。民間主導だと行政が全く手を離す感覚に取られがちだが、指定管理は3年間で見直しをかけたか、公開や評価基準で評価したりしている。まだまだ浸透していないのが現実だと思っているので、今後も、皆さん方に理解いただけるよう知らしめていただくことが必要だと思っている。

(田中市長) 我々の目標とする保育園は民間である。市内には民間の保育園があるが、保育に関し非常にきめ細かい。保育園を直ぐに民営化するというのではないが、子育ての中でも民営化した方が良い場面も多々出てきたと感じている。富山市でも民営化を始めた。そういうところのサービスを見ると、行政でやっていたときより臨機応変に対応している。保育をするにはどういうやり方がいいのか、南砺市の文化はどうか、そういうことを把握し、どういう方向性があるのか時間をかけて考え、説明すべきだと思う。

(委員) 富山市の保育園は民営化されてサービスが充実している話も聞き、富山市の方が良かったのかと話もしているが、井口で200人規模のものが出来る訳でもなく、

民営化されていくのかどうか、どう考えているか。

(市長) 今は200人規模なら出来るとしか言えない。逆にいうと井口では難しい。大きな会社が、あそこは200人で経営しそこで儲けて、ここで小さなものをやるという訳にはいかない。そこにはマンパワーも必要なので、200人規模のものと20～30人のものは全く別だと思う。

(会長) 他にご意見が無ければ、次に、空き家等の適正管理について及び、南砺市エコビレッジ構想桜ヶ池アクションプランについての説明をお願いします。

④ 空き家等の適正管理について

⑤ 南砺市エコビレッジ構想桜ヶ池アクションプランについて

(長澤市長政策室長から資料により説明)

(会長) 質問やご意見はあるか。

(委員) 屋根も崩れて朽ち果てている家屋を見るが、最近通ったら家の形も全く無くなっており、草も生い茂り木も倒れていた。親戚の方もいるかと思うが、そんな状況になった場合の対策は。

(長澤室長) 今までは、行政からお願いしか出来なかった。今回条例が出きたので、まずは、指導・助言、勧告、命令、そして最終的には代執行まで踏み込むことが可能になった。専門家による審議会に意見を求めることも出来る。ただ、直ぐにそうなるかは別の問題もあるが、条例に基づいてきちっと対応が出来るということである。個人の場合ならまだいいが、倒産した会社の施設のケースもあるので、管理されていない全ての家屋を規制管理できるかという点も難しい面もある。しかし、手続きは順番に踏ましていただき、最終的には、市の税金を使ってもいいとご理解をいただければ代執行も有り得る。しばらくその状況を見ていただきたい。

(委員) 個人情報に関わるかもしれないが、そういう物件がどうなったか公表はしないのか。

(長澤室長) 公表はしないが、区長さんには、その都度の状況をお伝え出来ると思う。

(委員) エコビレッジ構想について発想としては賛成である。桜ヶ池にはクライミングの施設がありそこはよく利用されているが、隣のスケートボード場はほとんど利用されていないように思う。その時代の新しいニーズを把握し取り入れていかないと、また古くなってしまふ。この構想が第1弾であれば、新しい発想を取り入れて使ってみればいいと思う。

(長澤室長) 県内にスケートボード場が少ないので、ある程度利用されていると思う。しかし、今回の構想は、施設よりも、人が動いて桜ヶ池という資源を活用し、経済的にも元気になるようみんなで考え、みんなで実施しようというところがメインになっている。とにかく実行してみて、そして出来るものを続ける、ということを考えている。

(会長) 本日の議題以外にも、日頃問題に思っていることがあれば発言願います。

(委員) 先程、市長の小・中学校の統廃合についての発言で少し安心した部分はあるのだが、地元の人が集まると小学校はどうなるのかといつも話題になる。井口地域学校教育推進協議会でも話題になるが、校区を無くすとか、地域外に出ている人を呼び戻すなど話も出る。結局廃校になったが、高岡で小規模特認校という取り組みがあった。地元の生徒は少なくなったが、校区外の生徒は来ていたと聞いてい

る。今年、校区外の生徒も含め中学校には18人入学した。子どもが増えるのは嬉しいし、活発になる。私はそういうことはっきりとした形で受け入れられないかと思う。井口の教育がいいから、どこの地区からも自由に入れると保護者も考えられて、子ども達もそのように理解できて良いのではないかと思う。特認校にするのは難しい部分もあると聞いたが、それについて考えを聞きたい。

(市長) 特認校については、様々な考え方がある。まさにそういうことをやっていきたいと思っている。井口地域の文教ゾーンは環境が良いと思っている。顔が見える範囲で、熱心な先生や父兄、地域の皆さんが関わっていける範囲というものが、全体的なエリアが丁度いいと個人的には思っている。そういったところで、井口の小・中学校、保育園も含めて人が集まってくるようになれば、まさに複式も解消されるということなので何か取り組みたいと思っている。また、学校が無くなるという議論は以前からあるが、市長としての思いは、一人になるまでやろうという思いである。ただ、地域として、これ以上減ったら教育として成り立たないということがあったので、平・上平では耐震化など様々な要素を含め考え、地域や父兄の皆さんと相談をした上で判断をした経緯がある。他市では、親は他の学校に出したいが、お年寄りは反対しているという話も聞いている。地域の学校という雰囲気を作っていたら、全体的な学区の廃止でなく、特認が良いか、別の方法があるか上手く回せる仕組みを作っていきたい。

話は変わるが、文科省に複式を止めて欲しいと要望しているが、先日その関係で財務省が南砺市を視察に来てくれた。そして、今の距離や雰囲気、規模などを見たときに、机上の人数だけの判断では駄目だということが分かったとコメントをいただいた。富山県も含め、特に中学校の複式は止めるよう要望し続けていきたいし、小学校も含め複式にならないよう制度としても単式になるよう努力をしていきたい。

(会長) 他に意見が無ければ終了にしたいかいかがか。

(センター長) その他は何かあるか。

(長澤室長) 合併時に、審議会は10年の設置期間の条例だった。任期が3年なので、26年度は1年みの任期になることから、2年延期し12年の設置期間とした。今までは市長から諮問し、審議会から答申をもらっていた。内容も、廃止や統合などの内容が多く、地域の方に判断をしてもらうのがメインだった。今回の3年間は、逆に市が諮問するのではなく、審議会の皆さんが検討し市長に進言するという形にしたい。例えば井口の場合、協議の中でも話題になったが、特認について自分たちで3年間勉強してやっていこうということも大事な部分である。現在、審議会に予算は付いていないが、1年間基礎を勉強していきたいということであれば、予算要求もさせていただき、あるいは地域づくり交付金も有効に活用していただきながら提言をいただけるような積極的な活動にしていきたいと思います。

(市長) 私は、地域内分権制度という思いを持っている。地域でどういう地域を作っていくか、地域の中で課題を見つけ解決し一緒に考えていこうということ。地域審議会と自治振興会のすみわけをどういう形でやるのかという事がイメージとして沸かないが、その辺りもじっくり煮詰めていただくことも必要かもしれない。審議会に予算を付けるというより、地域づくり交付金を持っている自治振興会で視

察や勉強会を開催した方がいいのかもしれない。

(会 長) 私もそう思う。自治振興会の中では、区長や支援員が運営委員となっている。審議会では新しく3人の女性の方に加わっていただいたので、そういう意味では、横通しの良い地域づくりが必要かと思っている。自治振興会とか地域審議会とか垣根を持たないで進めていきたい。

(市 長) この地域はそれがベストだと思う。要請があれば何度でも来るので、我々も一緒に議論したり、そういうものが積み重なっていくと次の展開になっていく。審議会と同じメンバーで時間をとって説明した方がいいという場面もあるので、そうすると、地域審議会だけでなくもう少し幅を広げようという話にもなる。そうなるかどうかという形がいいのかという話にもなる。

(会 長) そういった意味では、各種団体も入っているので、自治振興会にも来て頂いて話をしてもらおうなど風通しを良くできればと思っている。

他にご意見はあるか。意見が無いようならこれで閉じさせていただく。

○閉会

林会長より閉会の挨拶。

山崎行政センター長から閉会の宣言をする。

以上